

~ 2 獣種別対策 ~

被害対策のためのイノシシ基礎知識

対策のポイント

高い繁殖力のため捕獲のみの依存は禁物

被害管理と生息地管理が重要

イノシシは平野の生き物

イノシシにとって作物は最高の食べ物

イノシシの分布域

広域地域での被害対策が必要。

これまで生息しなかった地域で被害が問題化（九州北部、四国北部、北陸、信越、関東や東北等、平野部と積雪地域）。

イノブタの野生化問題も顕在化。



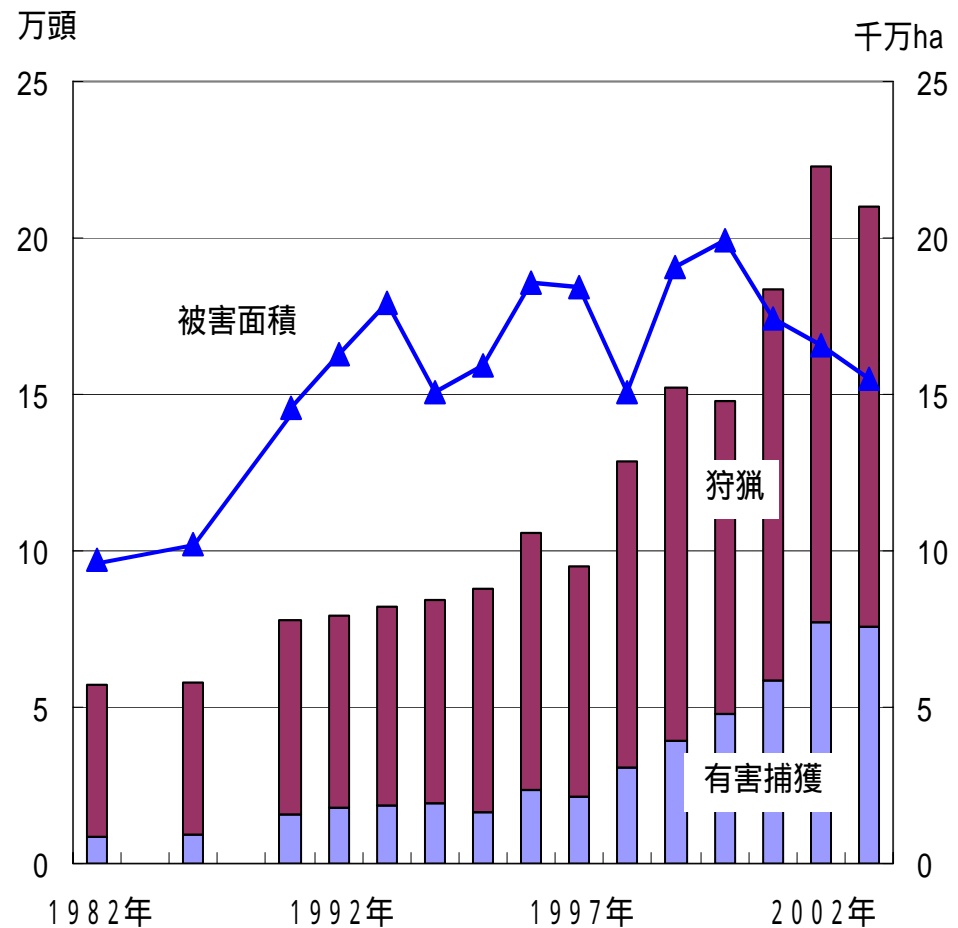
< 仲谷淳撮影 >



環境省生物多様性センター「自然環境保全基礎調査」より

増加する被害面積と捕獲数

被害面積とともに捕獲数が増加しているが、被害の減少は、見られない。



環境省「鳥獣統計」より
農林水産省「生産局農産振興課資料」より

イノシシの基本的社会



< 仲谷淳撮影 >

成獣雄は
単独生活



< 仲谷淳撮影 >

成獣雌は子と
グループ形成



< 仲谷淳撮影 >

1才子は兄弟姉妹
で小グループ形成

群れを作らない

成獣で見ると単独型社会

高い繁殖能力



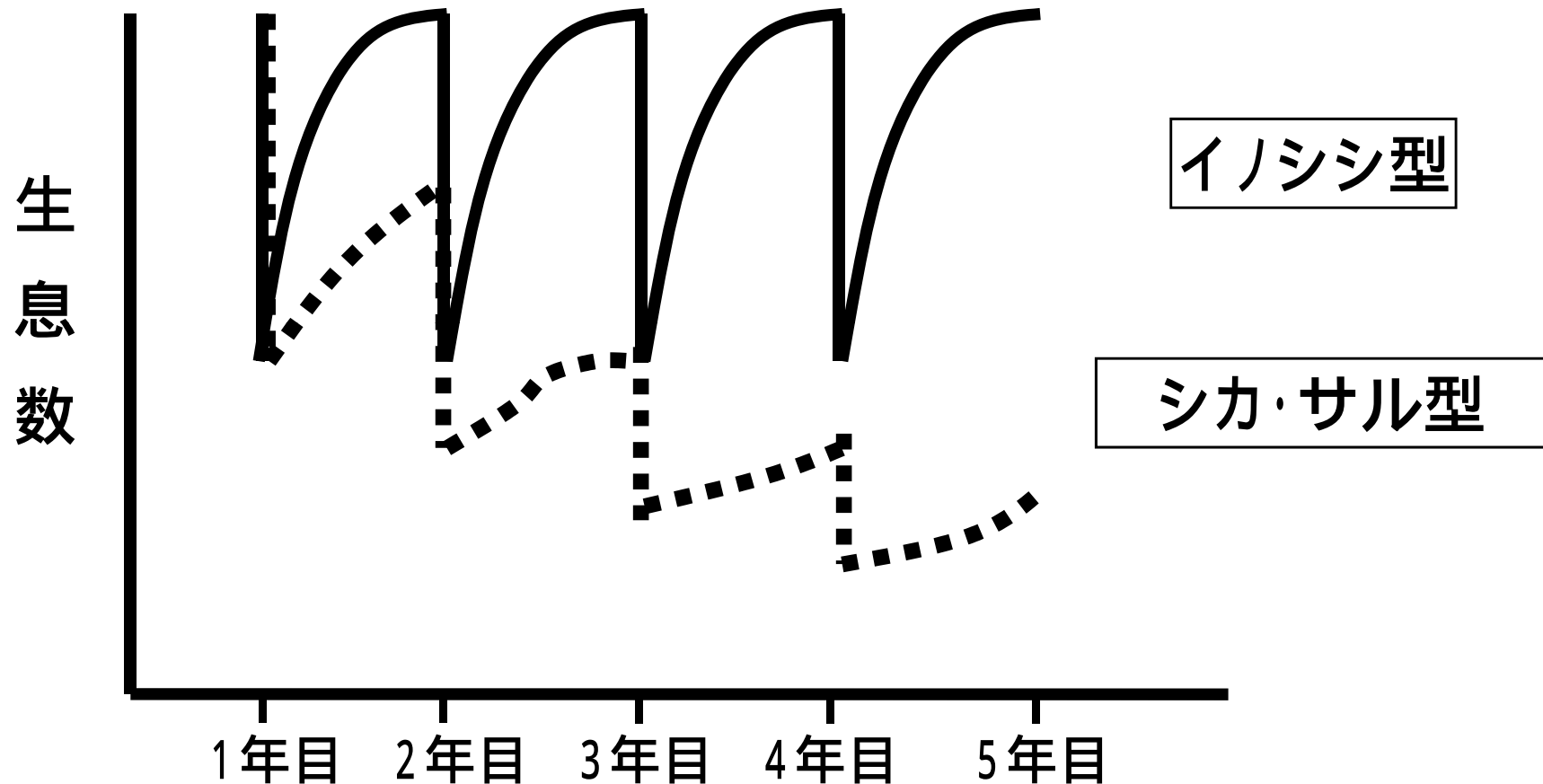
< 仲谷淳撮影 >

早い性成熟：2歳で出産
基本的に年1産（春～初夏）
高い妊娠率：ほぼ100%
多い産子数：4～5頭
1才までに約50%が死亡

毎年、2頭ほどの子供を残す

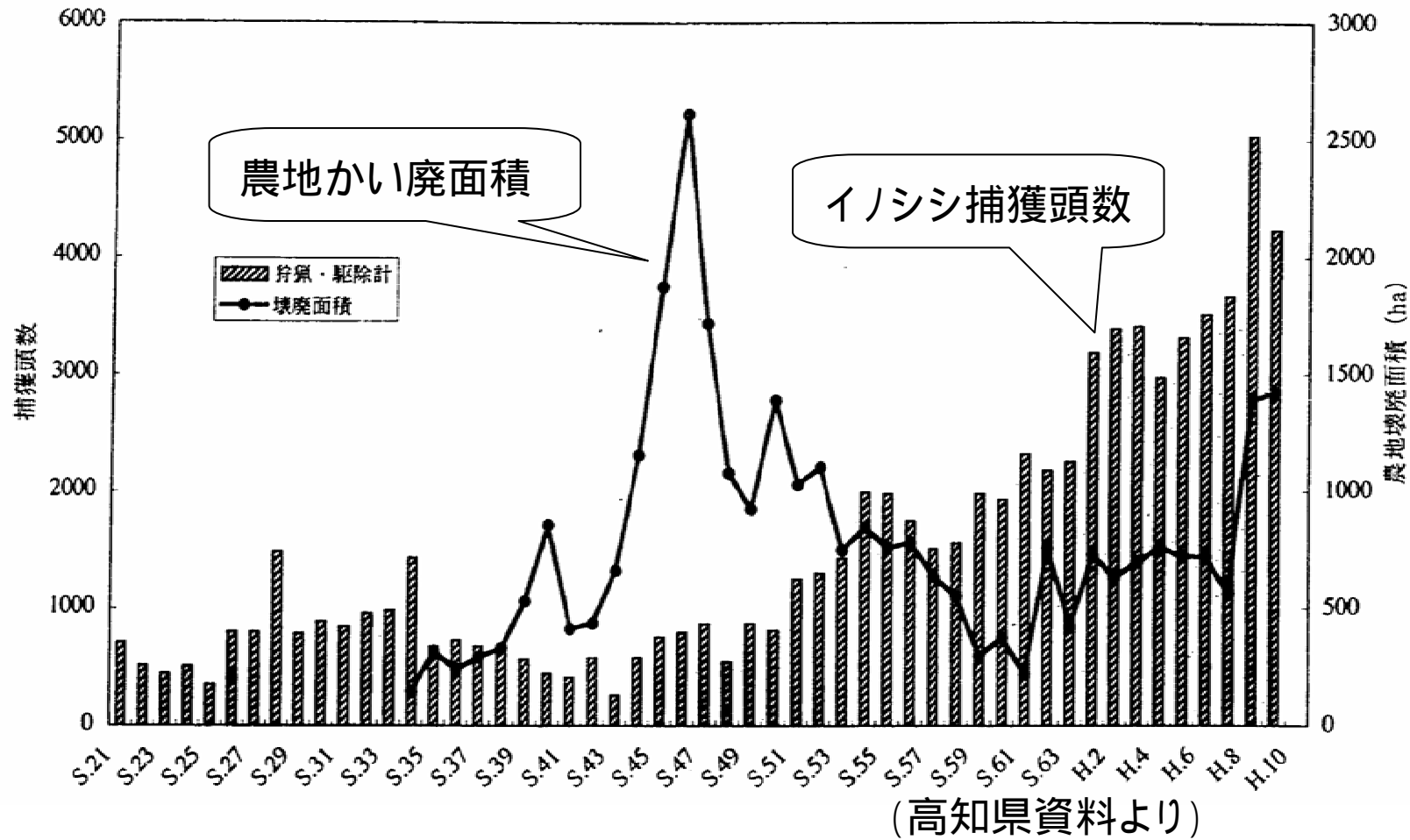
数のコントロールはシカやサルに比べて困難

捕獲効果を埋め合わせず繁殖力



50%捕獲したときの生息数の変化(イメージ図):イノシシの繁殖力の高さを考慮した図だが、実際の変化については正確なデータに基づく検証が必要。なお、個体数の増加はロジスティック式に従うとし、初期値は環境収容力に見合う個体数を用いた。

農地かい廃がイノシシ増加に關与

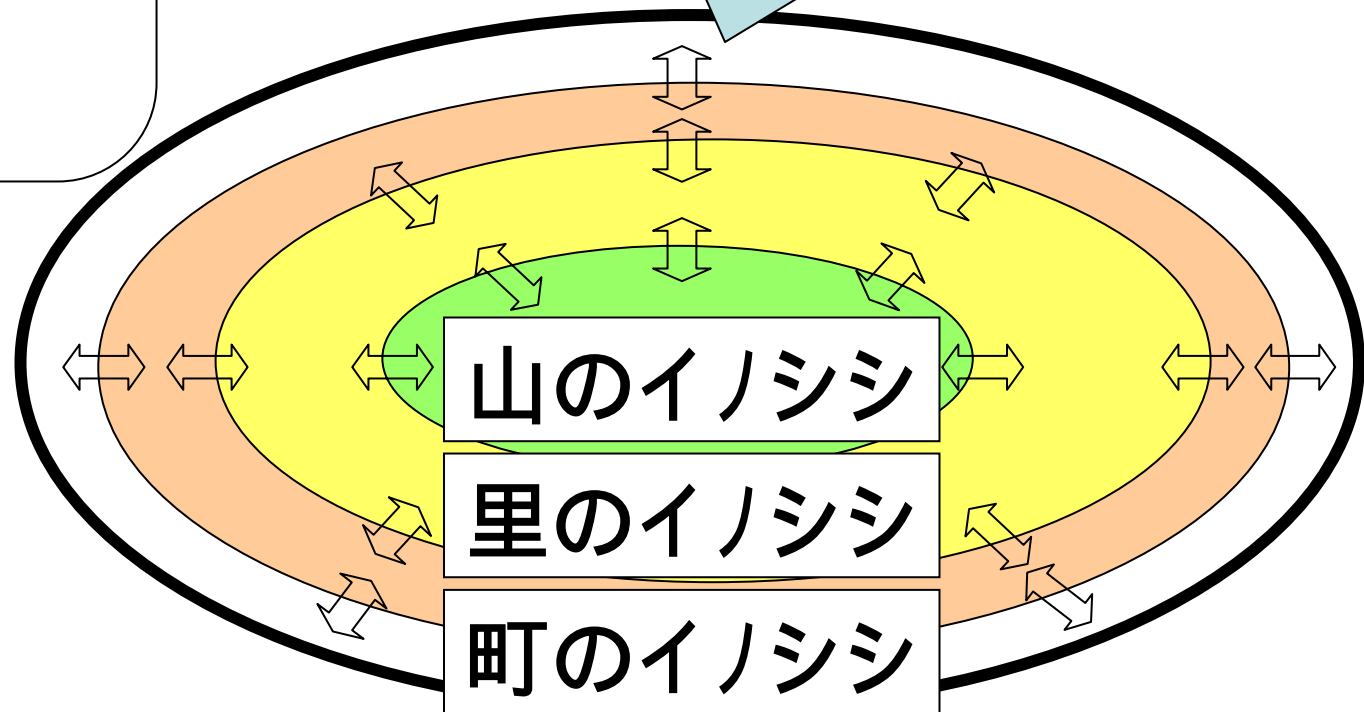


農地のかい廃後にイノシシの捕獲数が増加

勢力も境界も変化する

境界は人とイノシシの勢力関係で決まる。

野生動物も平野が住みやすい！



人家近くの里山に生息

隠れ場所や食物などの多い藪を好む。
日中、林の中で生息し、姿を見せない。
人間の影響が少ない地域では昼間も活動する。
本来は、「平野の生き物」である。



< 仲谷淳撮影 >



< 仲谷淳撮影 >

六甲山のイノシシ、背後に神戸の市街地が見える

意外と狭い活動範囲

狩猟により遠くまで追い立てられることもあるが、食物などが十分で危険がないと、狭い地域に長く留まる。

農作物を加害する個体は被害農地の近くに潜伏する傾向がある。

成獣雌の行動圏(ヘクタール)

調査地域	タイプ	期間(月)	行動圏
南カロライナ	野生ブタ	3 ~ 10	437
テネシー	雑種	夏(約3ヶ月)	347
テネシー	雑種	冬(約7ヶ月)	266
日本	イノシシ	12	209
南カロライナ	野生ブタ	12 ~ 27	178
ハワイ	野生ブタ	5 ~ 17	112
カリフォルニア	野生ブタ	7	67

仲谷 1994資料より

イノシシの生活痕跡



糞

親指大の粒が固
まいった形をしている
<仲谷淳撮影>



足跡

偶蹄類のため、左右対称
の蹄のあとを残す
<仲谷淳撮影>



ヌタ場

しめった粘土質土壌の
場所で泥浴びをする
<仲谷淳撮影>

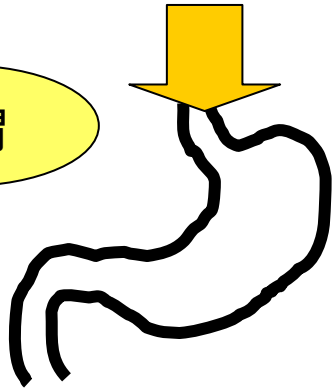


泥こすり木

ヌタ場近くにある木などに
体をこすするため、泥が付く
<仲谷淳撮影>

作物は最高の食べ物

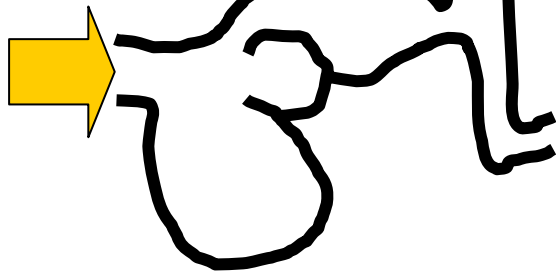
単胃



人、イノシシ、サル

ヒトやサル、イノシシの胃の構造は単純で、消化の良い食べ物を好む。

反芻胃



ウシ、シカ、カモシカ

イノシシやサルはヒトの作物に執着する！

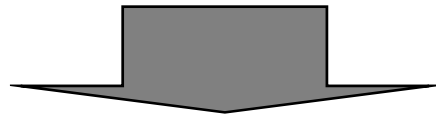
一方

反芻動物は繊維質の多い草を好む

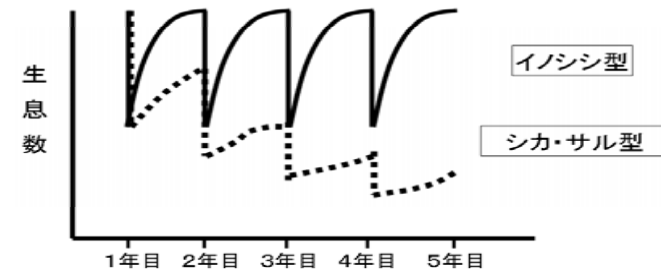
イノシシ被害対策の要点

高い潜在的繁殖力。
狩猟者の高齢化と減少。

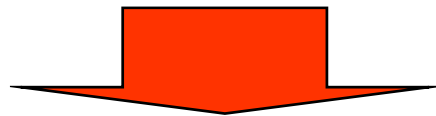
毎年、50%を捕獲しても減少しない。
個体数を減少させるには、50%を超える捕獲計画が必要。



獲っても湧いてくる。



生息数の50%を捕獲したときの变化イメージ図



個体数管理とともに被害管理や生息地管理を

ただし、資源の利用としては最高の生き物

捕獲獣の肉資源利活用



解体実習 <仲谷淳撮影>



夏肉の試食会 <仲谷淳撮影>
血抜きと処理の迅速さが
決め手！

いろんな食べ方
がある。



焼肉 <仲谷淳撮影>



カレー <仲谷淳撮影>



炒め物 <仲谷淳撮影>



加工品(ソーセージ) <仲谷淳撮影>

主な防護柵とその特徴



トタン < 仲谷淳撮影 >

最も広く利用され、地域によって効果が認められるが、飛び越える、押し倒す、持ち上げるなどして侵入されることも多い。傾斜地やイノシシが乗り越える場合は2段にする。



シート < 仲谷淳撮影 >

シートの下から簡単に侵入されることが多い。強度が弱いことも難点である。



ネットや漁網 < 仲谷淳撮影 >

外側にたらしして設置されるが、食い破る場合がある。補強、または踏切場所をなくすため、2重にしたネットの外側を斜めに垂らすのもよい。魚網は、漁協から分けてもらえれば、安価に設置できる。視覚的な遮断効果がないため、農作物が外部から見える。

主な防護柵とその特徴



有刺鉄線 < 仲谷淳撮影 >

毛があり皮の厚いイノシシにとって、とげは余り効果がなさそう。写真は、有刺鉄線についてのイノシシの剛毛。



ワイヤーメッシュ < 仲谷淳撮影 >

強度があり、効果も認められるが、視覚的な遮断効果がない。一般に市販されている規格の高さ(1m)ではイノシシが飛び越えることもある。編み目が大きすぎると幼獣が通り抜けるので注意したい。



電気柵 < 仲谷淳撮影 >

効果が高いが、維持管理を怠ると侵入される。漏電しないように、除草しておくことが肝心である。幼獣がくぐり抜けないう、電線の高さや間隔を考慮しておく。

注意：高さや強度等は被害状況に応じて柔軟に対応

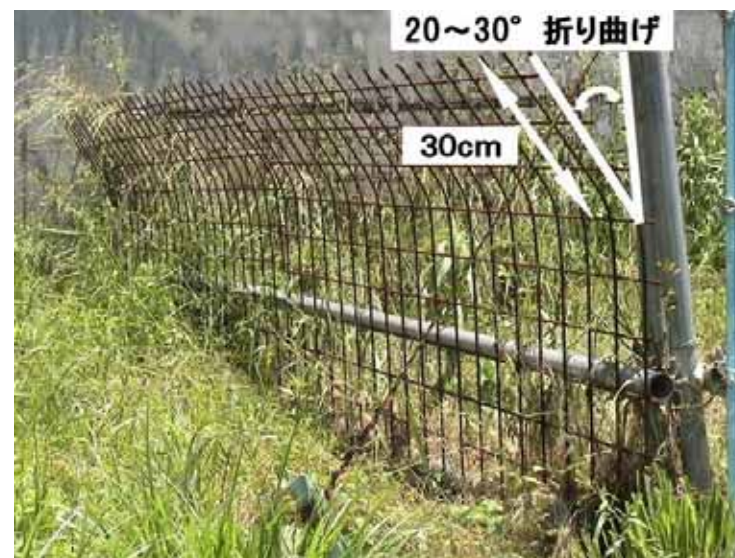
忍び返し柵と防護柵の組合せ

農林水産省の研究プロジェクトで麻布大学と近畿中国四国農業研究センターが共同で開発した忍び返し柵。

一般的に使用されている1mの高さのワイヤーメッシュ格子柵を改良し、上部30cmの部分を外側に20～30度折り曲げると、イノシシが接近しても乗り越えない。

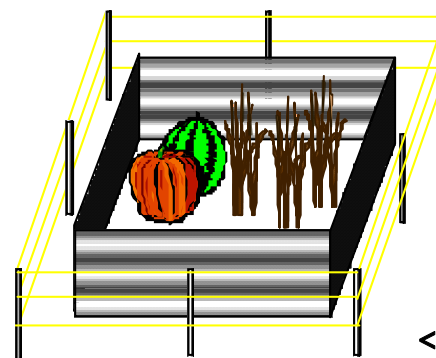
いくつかの侵入防止技術を組み合わせ、それぞれの防止技術の弱点を補いあうよう配置することで効果も上がる。

イノシシ用返し付きワイヤーメッシュ柵



<竹内正彦撮影>

電気柵とトタンの組合せ



トタンで作物を囲い、30～40cm離れた周囲に電気柵を設置。

<イラスト:江口祐輔>

柵の設置は効率よく



< 仲谷淳撮影 >

無計画に個々人が
設置した防止柵

計画的被害防止柵
の設置



< 仲谷淳撮影 >

効果的な捕獲

被害農地の近くに潜伏する加害個体を捕獲すると効果大。

広域捕獲は被害低減のために必要だが、未生息地域への拡散に注意。

効率的な捕獲のための広域連携による取組みも大切。



< 仲谷淳撮影 >

小型檻は、イノシシの出没状況に応じて設置場所を変えることができる。檻はくくり罠などと比べて、捕獲技術が容易。

イノシシの移動ルートを考慮した 効果的な柵および罠の設置

秋のサテライト行動圏

国道級の移動
ルート制御が効
果的。

柵による移動
ルートの遮断。

出現しやすい
場所へ罠を設置。



忌避物質の効果は限定的



市販忌避テープを食べる <江口祐輔撮影>

猛獣糞を体に擦り付ける

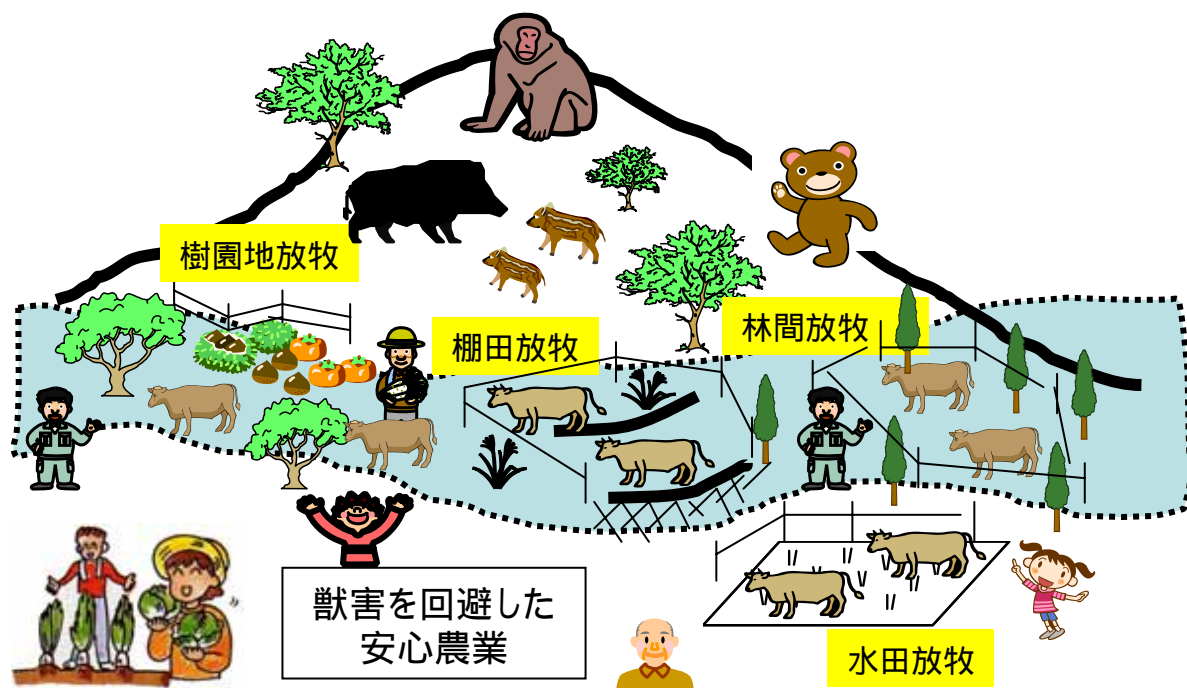


<江口祐輔撮影>

近畿中国四国農業研究センター成果情報

忌避物質として使用されている多くの物に対して、イノシシは好む反応を示す。長期間の使用では逆に誘因物質になる場合もある。

放牧による獣害回避



<千田雅之撮影>



<小山信明撮影>

獣害回避効果 除草による有害獣の隠れ場と侵入経路の除去 クズなどの食物の除去 家畜の世話等による人間活動の増加 牧柵等の設置効果 森林と農地の間での帯状設置が有効。

保全的放牧技術の導入
畦畔の保全、乾田化
適切な放牧頭数など

ウシそのものによるイノシシへの撃退効果は望めない

獣害に強い集落

山

集落
道路

農地



< 仲谷淳撮影 >

山際の利用促進（水路、道路、公共施設など）